

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月1日～

先週も為替相場では円安が進み、ドル／円は160円を超えて、161円台まで上昇しました。37年ぶりの円安水準ということです。1986年とか1987年頃というと、バブル前夜でまだ株価もそこまで高くなかったので、ドル／円レートと日経平均で見るとかなりの違いがあることがわかります。

これ以上の円安は貿易に影響が出るため政府も経済界も円安で頭が痛いですが、米国の顔色を見ながらの介入ということで、動きが取りにくいのではないのでしょうか。介入警戒感はあるもののじわじわと円安が進んでいく状況は続きそうです。

単独介入の場合、効果は限定的なので、今回も介入効果は2カ月程度しかもっていません。

このまま米国の利下げが遅れて、日本の金融政策も緩和的な状況が続けば円安トレンドは継続すると考えておきたいです。

そして、ドル／円が160円を超えたことで、クロス円も高値更新の動きとなっています。

ユーロ／円は170円を超え、ユーロ導入以来の高値となっています。

テクニカルで見ても明確なポイントがわかりにくくなっていますがクロス円もドル／円の動きと合わせて見て、ドル／円が高値更新したことで高値更新したのかどうか確認しながらトレードしていきたいです。

今週は、米国では重要指標の発表が多く、週末には雇用統計も控えています。

また、4日は米国は独立記念日で休場、英国では総選挙があります。

米国株も先週、ナスダックやS&P500が史上最高値更新という動きになっているため急落リスクにも備えておいた方がよさそうです。

ドル／円だけでなく、クロス円や株も高値更新が続くかどうかポイントになりそうです。

日本以外の先進国は利下げに動き出したように見えますがオーストラリアが消費者物価指数の数値が高かったこともあり、再度利上げに動くのではという見方も出ています。

利上げ期待が高まってくれば、豪ドル／円もさらなる高値更新の動きにつながりそうです。

先進国だけを見ても政治的にも不透明感が強く、金融政策も予想が難しい状況なので、不安定な動きが出ることも考えて、あまりポジションを増やすのは得策ではなさそうです。

また、最近は落ち着いているように見えますが地政学リスクもおさまっていません。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ドル／円は先週160円を超えると、そのまま161.2円の高値をつけて、少し下げて160円台後半でマーケットは終わっています。

明確に160円を超えてしまったことで、このまま160円台が定着すれば163円、165円と次々と高値更新していく可能性があります。

次の介入がどの程度のレートになるかわかりませんが円安トレンドは継続中なので、下がることがあれば絶好の買い場となる可能性があります。

ただし、6月はずっと上がり続けてきたため大口の利益確定などが出たり、米国次第では流れに変化が出てくるかもしれません。

戦略は押し目買いで考えて、売りは当面見送りがよさそうです。

下値は、160円を割り込んでも158円あたりにもサポートがあり、下げ止まれば買いと判断したいです。

<気になるクロス円>

クロス円もドル／円に連動して高値更新しているペアが多く、買い戦略で考えたいです。

特に、週足で陽線が続いているペアの売りは危険なので、買いのみの戦略で考えたいです。

高値圏にあることは認識して、荒っぽい動きに警戒しながら慎重に取引したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4-6月期日銀短観などがあります。

米国では6月製造業PMI(改定値)、6月ISM製造業景況指数、パウエル・FRB議長発言、5月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、6月ADP雇用統計、5月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、6月サービス部門・総合PMI(改定値)、5月製造業新規受注、6月ISM非製造業景況指数、FOMC議事要旨、6月雇用統計などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで6月製造業・サービス業PMI(改定値)、6月消費者物価指数、ドイツで5月製造業新規受注、5月鉱工業生産、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、5月卸売物価指数、欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨、5月小売売上高などがあります。

ほかには中国で6月Caixin製造業PMI、英国で6月製造業PMI(改定値)、カナダで失業率の発表などがあります。